広報

くどやま

2013
10月号
No.456

敬老会を開催

９月の敬老の日にちなみ、長年社会や地域に貢献してきたお年寄りの皆さんに感謝の気持ちを込めて、９月９日に九度山町敬老会がふるさとセンターにおいて開催されました。

敬老会では、九度山保育所、九度山幼稚園の園児たちが、舞台の上で和太鼓演奏、演劇や歌などのほほえましい演目で舞台を盛り上げてくれました。また、よしもとステージと題して、女と男、桂楽珍さん、大平サブローさんの３組が漫才などを披露していただき、会場は大きな笑いや拍手で満たされ、参加された皆さんは、時間が経つのも忘れて、楽しいひとときを過ごしました。

なお、９月１日現在、町内には75歳以上の方は1,097名おられ、そのうち90歳以上の方は、140名おられます。皆さまのご長寿をお祝い申し上げます。

町づくり懇談会を開催いたしました

平成25年4月12日から8月28日にかけて、合計18カ所において「町づくり懇談会」を開催し、５５０名あまりの皆さまにお集まりいただきました。役場からは本年度建設する地域振興交流施設や平成27年度に開催される紀の国わかやま国体のご説明を申し上げるとともに、今後の町づくりに対するご意見やご要望をお聞きする場となりました。

今回、その内容および回答を抜粋してお知らせします。

［◆…質問　◇…回答］

▲平成25年4月23日に開催された河根地区の懇談会の様子

【地域振興交流施設（道の駅）について】

◆　地域振興交流施設を建設する事により税金が上がるのではないか。

◇　そのようなことはありません。直売部門を「よってって」さんにお願いしたのも買い物する場所を作る目的と同時に町としてのリスクを減らすため誘致しています。

◆　道の駅へ買い物に行くための交通手段を考えてくれないか。

◇　さまざまな検討が必要と考えています。シルバータクシーチケット制度の拡充も選択肢だと思っています。

◆　道の駅の利用を促進するため、町民向け割引サービスの考えは。

◇　プレミアム商品券の発行など検討します。

◆　成功している道の駅（直売所）は目玉商品がある。ぜひ検討しては。

◇　研究いたします。

【産業・観光について】

◆　柿に特化した「柿課」を新設し、販売促進に努めたらどうか。

◇　産業振興課において努力していきます。

◆　オートキャンプ場建設の予定は。

◇　「さえもん」を活用した検討を行っています。

◆　富有柿のブランド化に向けた取組はどうなっているか。

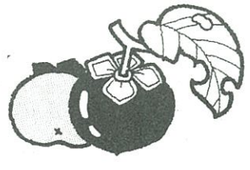
◇　県内外でのＰＲ活動を継続して実施しています。また、白浜や那智勝浦の旅館でも食後のフルーツとして格外品を取り扱っていただくなど販路拡大にも取り組んでいます。

◆　まちなかを歩く観光客に道を聞かれることが多い。案内板が少ないのではないか。

◇　検討します。

◆　ふるさと産品直売所は来年度から柿のシーズンのみの営業と聞くが本当か。

◇　そのように予定しています。



【基盤整備・定住対策について】

◆　国体・道の駅を考えたら丹生橋の交通渋滞が考えられるが。

◇　丹生橋は県道なので県に要望をしています。

◆　紀の川の堤防未整備区間はどうなっているのか。

◇　現在、国の方で安田島から着手する予定となっており、その後慈尊院の堤防に取りかかる予定です。

◆　紀の川左岸農道の進捗状況は。

◇　平成28年3月末の完成に向け進んでいます。

◆　移住政策についてどのように考えているか。

◇　現在、町内の空き家情報を収集しています。行政が貸し手と借り手のつなぎ役ができればと思っています。

また、住宅新築には１００万円の補助金を創設しています。

【防災・交通関係】

◆　買い物難民のための公共交通手段（バス等）は考えてないのか。

◇　さまざまな検討のうえで、現在はシルバータクシーチケット制度を採用しています。

◆　避難場所について、現在指定されている学校・集会所・児童館では収容できないのでは。また、施設の老朽化により避難場所が危険なのではないか。

◇　地域の皆さまと相談しながらより安全な避難場所を検討します。

◆　備蓄庫はいつから出来るのか。

◇　計画が出来次第、順次整備していきます。

◆　防災ハザードマップの進捗状況はどうなっているのか。

◇　平成26年2月頃完成予定です。

◆　南海電鉄のダイヤが悪くなり、駅も無人化になってしまった。いっそう町がさびれるのではないか。

◇　南海電鉄本社に要望活動を行いましたが町として到底納得できません。町の要望を訴え続けます。

◆　防災無線が聞こえない。何か対策はあるのか。

◇　地形や距離、スピーカーの向き等の問題で聞こえづらいと指摘を受けています。調査をし、個別受信機で対応できないか検討します

【衛生・福祉関係】

◆　ゴミの分別について定期的に指導してはどうか。

◇　説明会を開催し、指導を徹底します。

◆　ゴミ袋をくくったり持ちやすいように改良できないか。

◇　在庫が無くなった段階で切り替えができるよう検討します。

◆　介護保険料は県下最高額だと聞くが、下げる方法はないのか。

◇　介護予防教室の実施により健康増進を図り、保険料を下げる取組を行っております。

◆　集会所（児童館）のトイレを洋式に替えて貰えないか。

◇　ほとんどの施設のトイレが和式であり、改修は計画的に実施しないと予算的に難しいと考えています。

【教育・国体関係】

◆　国体開催時の宿泊の手配はどのようになっているか。

◇　県で一括して手配します。

◆　国体の開催で全国の人が本町を訪れる事になるが治安の面は大丈夫なのか。

◇　町民の皆さまにご心配をかけないよう準備を行っていきます。

◆　古澤小学校の活用の考えは。

◇　現在休校扱いです。今後、全く子どもが通学しないとなれば、地域の皆さまにとって有益な活用方法を検討することになります。

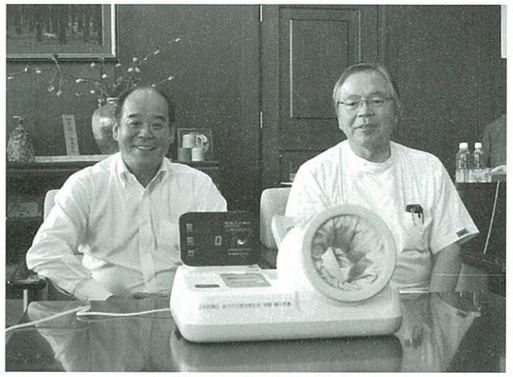
皆さまの声をいただいて

その他たくさんのご意見・ご提言をいただきまことにありがとうございました。いただきましたご意見・ご提言は十分検討させていただき、財政面を考慮のうえ実施可能なものにつきましては早急に対応して参ります。

地域振興交流施設につきましては多くの町民の皆さまが関心を寄せていただいており、さまざまなご質問や心配の声もいただきました。町としましては、単なる観光客向けの施設ではなく町民の皆さまが日常生活を送るうえで必要な買い物ができる場所として町民の皆さまに愛され利用される施設を目指しております。そのことを少しでもご理解いただけたなら幸いです。

また、紀の国わかやま国体につきましても本番の平成27年度に向け、今後さまざまな取り組みが始まります。町を挙げて選手・関係者を迎えていただけますよう切にお願い申し上げます。

横手医師から町に自動血圧計が寄贈されました

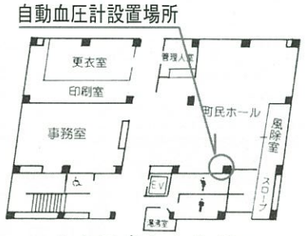


▲横手医師と岡本町長

地域住民の健康および生活の支えに長年にわたり尽力された医師の功績を称えるため、今年日本医師会が創設した「赤ひげ大賞」の第１回受賞者となられた横手クリニックの横手英義医師に、町から受賞のお祝いをお贈りしたところ、横手英義医師より、その受賞記念として、町民の皆さま方が今後とも健康で健やかな生活を過ごしていただけることを願い、最新の自動血圧計を寄贈くださいました。

血圧計は、ふるさとセンター１階ロビー内に設置しております。皆さま方の健康管理にご利用ください。

▲血圧を測る町長



▲ふるさとセンター

▲自動血圧計設置

「道の駅　柿の郷くどやま」の建設工事が始まりました。

入郷駐車場に建設する道の駅は、８月29日に完成を祈願する起工式を執り行い、建設工事が始まりました。

本施設は、観光振興、物産販売や休憩・情報発信・地域間交流機能等を併せもった多機能型施設で、町外の人々が九度山を味わう観光拠点、また町民の暮らしをサポートする生活・活力拠点を目的として、建築面積1381.47㎡、延べ床面積1345.32㎡の鉄骨造平屋建てを建設するものです。

年度内の完成を目指し施工されます。工事中はご近所の方々をはじめ皆さま方にご迷惑をおかけしますが、何とぞご協力をお願いします。

まちの話題

町長が最高齢者を激励訪問

９月11日、岡本町長が町内の男女の最高齢者を訪問し、記念品をお渡しして、長寿をお祝いしました。

９月１日現在、町内で100歳以上の方は７名です。今年の最高齢者は昨年に引き続き、男性が塩谷俊道さん101歳（椎出）、女性が中谷シヅ子さん104歳（友愛）です。

いつまでも元気で長生きしてください。

▲中谷シヅ子さん

▲塩谷俊道さん

夏まつりを開催!!

８月24日は、雨天が予想されたこともあり、会場を事前に九度山文化スポーツセンターに変更して、夏まつりが開催されました。

夕刻の会場には、小雨にもかかわらず町内外から約2,000名の来場者の方々で賑わいました。金魚すくい、たこやきやかき氷などの模擬店が出て、大勢の親子連れの方々も大いに楽しみました。

また、アリーナでは、盆おどりに参加した人たちで二重、三重と大きな輪ができました。

会場は、夏まつりを楽しむ方々の楽しい交流の場となり、暑い夏を吹き飛ばすような雰囲気に包まれました。

商店街をみんなで元気に踊る

９月15日、九度山商店街において、第16回紀の国やっちょん祭りが開催されました。

「紀の国やっちょん」は、伊都橋本地方に古くから踊り唄い継がれてきたふるさとの芸能である「やっちょんまかせ」の自由で闊達な精神を引き継ぎ、現代風にアレンジされた踊りです。

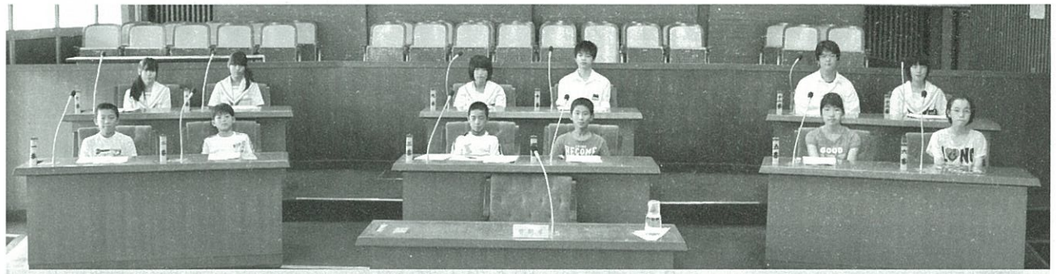
当日は、町内外から踊り連８チームが参加しました。それぞれのチームは、小雨の中、満面の笑顔で活気のある踊りを披露していました。商店街につめかけた大勢の見物客は、各チームの元気いっぱいの踊りに大きな拍手と歓声を送っていました。

子ども真田紐手織り体験教室を開催!!

８月７日～９日の３日間、中央公民館において子ども真田紐手織り体験教室を開催し、小学生13名が参加しました。

子どもたちは、手織り織機を使って自分だけのオリジナルのストラップを作りました。織機を動かし、糸をとおして織っているときの表情はみんな真剣そのもの。できあがったときは、作品を見て「美しい」、「楽しかった」、「またしたいです」、「次は、もう少し太いのをやってみたいです」などと笑顔で話してくれました。

九度山町のまちづくりについて考える
～子ども議会開催～



7番議席 河根中学校 渡邊　真優	8番議席 河根中学校 柳谷　紅秋	9番議席 九度山中学校 山本　絢野	10番議席 九度山中学校 中西　政宗	11番議席 九度山中学校 西畑　和彦	12番議席 九度山中学校 木村　くるみ
1番議席 九度山小学校 堀　海斗	2番議席 九度山小学校 松山　青潤	3番議席 九度山小学校 西畑　勇杜	4番議席 九度山小学校 谷口　真輝人	5番議席 河根小学校 神丸　優羽	6番議席 河根小学校 井上　裟理

子ども議員の皆さん（敬称略）

8月28日、第7回子ども議会が本町の議場において開催され、町内の小・中学生が議会を体験しました。

子ども議会は、未来を担う子どもたちが町議会のしくみや流れを学び、町政に参加する体験を通して、子ども自身が町政について理解や関心を深めるとともに自身の考え方や発表の力を高めることを目的としています。

議事の進行は子ども議長が行い、子ども議員の質問は、一般質問形式により一人につき一問で行われました。

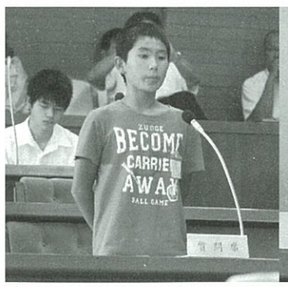
質問内容は、「学校の環境改善」、「図書の充実」、「通学路の安全対策」、「過疎化や少子高齢化対策」、「ゴミ問題」、「道の駅」、「観光振興」など幅広い分野のテーマが取り上げられました。

子ども議員の皆さんは、元気よく、わかりやすく発言し、どの質問からも九度山町をより良くしたいという思いが伝わってきました。

これらの質問に対して、岡本町長は一問ずつ丁寧に答弁し、質問した子ども議員はその答弁にうなずきながら、納得した様子で聞いていました。

傍聴席でも、小・中学生が真剣な表情で、熱心に聞き入っていました。

参加した子どもたちには、子ども議会の経験を活かし、今後の九度山町のまちづくりを担う人材として成長してほしいと願っています。



▲質問する子ども議員

▲議長の木村さん

▲答弁する町長

世界少年野球大会優勝を報告
九度山中学校３年　栗林　佑磨君

８月27日、世界少年野球大会の優勝報告会が開かれ、町体育協会役員、九度山中学校校長、同教頭、小学校時代に所属していた九度山学童野球クラブの後輩や保護者の方々が出席し優勝を祝いました。

栗林君は、今回のチームの副主将として５試合に３番・捕手として出場。11打数６安打の好成績で優勝に貢献しました。

栗林君は、「プレッシャーがあったが優勝できた。これからは、ともに戦った仲間が高校野球ではライバルになるので、一層がんばっていきたい」と抱負を語ってくれました。

会場からは、これからの活躍を期待する声があがりました。

▲報告会の様子

国体推進室NEWS!!第5号

2015紀の国わかやま国体

こんにちは、スポーツの秋ですね。皆さんもこの機会に何かスポーツをはじめてはいかがですか？

さて、前月号の問題は、国体の文字と並んで書かれている「大会」の正式名称は何でしょう？でしたね。皆さんはわかりましたか？国体は「国民体育大会」。大会とは、「全国障害者スポーツ大会」の略です。障害のある方が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に関する理解を深め、障害のある方の社会参加の推進に寄与することを目的とした大会です。各市町村でいろいろな競技を行いますので、この機会にぜひ、皆で応援に行きましょう!!

それでは、いつもの問題です。

2013年の国体開催地は東京ですが、来年の開催地はどこでしょう？答えは、来月号までおたのしみに～

a. 岐阜県　　b. 和歌山県　　c. 長崎県

ヒント：ちゃんぽんといえば・・・！

LET'S きいちゃんダンス

きいちゃんダンスとは・・・

健康・体力づくりの推進や、国体の開催周知および気運醸成を図るためのものです。

今回は、九度山中学校で、「きいちゃんダンス教室」が行われるということで、国体推進室から取材に行ってきました。下の写真は、きいちゃんダンスの練習をしている様子です。

善名稱院（真田庵）が町指定の「文化財」に

▲善名稱院

教育委員会では町内の歴史的遺産の調査・発掘を計画的に進めております。その中で皆さんがよくご存じの善名稱院（通称名は真田庵）の本堂などについて、その価値が再発見されたので、7月24日に町の文化財として指定しました。

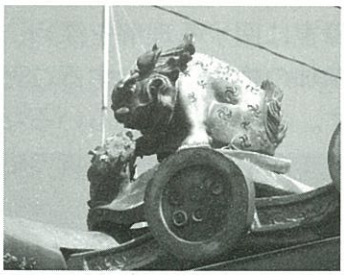
本堂は記録と鬼瓦（橋本市名古曽の瓦師）の銘により、江戸時代末期の安政４年（1857）に再建され、平面的には権現造という形式で南の本堂部分と北の庫裡部分を中央の相の間部分でつなぐ形式です。さらに本堂部分について内陣では北向に作法しますが、一般の参拝者は東から西に向かって礼拝するという特殊な形式です。

本堂という１棟の中に本堂・客殿・庫裡の機能を持たせ、さらに外観からみると１階部分に３階建の部分が直交して乗りかかるというほかに例がない本堂です。

境内の南東隅には当寺を創建した大安上人を葬り、その上に多宝小塔を置き、さらに覆屋を建て廟所として祀っています。ともに安永３年（1773）頃に建てられ、内部の塔は極彩色と金泥・飾り金具で装飾された豪華な塔です。そのほか土砂堂・長屋門・位牌堂・北門も江戸時代末期のもので、全体として江戸時代の寺院景観をよく留めています。

また、北門南西隅の隅蓋という瓦には、非常にユーモラスな親子の獅子を作り出しており、一見の価値があります。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

▲特徴のある屋根



▲親子の獅子

なお、本件のみの調査にとどまらず、皆さんのご理解をいただきながら町内の建造物などを調査させていただきました。その中で、身近にありながら人知れず埋もれた貴重な遺産がたくさん発見されておりますので、今後広報にて報告できればと考えています。